

自閉症の特性と環境要因の手引き ver.1

特 性	関係する環境要因の例	指導・支援の概要	
コミュニケーション・社会的特性	受容コミュニケーションの特性 言語指示の理解の困難さ、字義どおり理解する、言語指示を整理してつかむことができないなど	<ul style="list-style-type: none"> 指示が無い 指示が本人にあっていない 情報量が多い 指示が複雑でわかりにくい 	<ul style="list-style-type: none"> 本人の理解にあわせて視覚的指示の活用 言語指示も本人にあわせる 情報を整理して伝える 指示を明瞭化する など
	表出コミュニケーションの特性 無言語、エコラリア※、声の調子やリズム、意思交換の困難さなど	<ul style="list-style-type: none"> 表出できていた時点から、状況(文脈)が変化した(人、場面) 本人に必要な代替コミュニケーションのツールが無い 本人にあった教えるステップがない 	<ul style="list-style-type: none"> 本人にあった代替コミュニケーションのツールを活用する リマインダー※、視覚的指示の利用 本人にあわせて手がかりとステップで教える など
	社会性・対人関係の特性 一人であることを好む、アイコンタクトやジョイントアテンション、セオリー・オフ・マインド※の困難さ、自発的にかかわりをもつことの困難さなど	<ul style="list-style-type: none"> 曖昧な社会的な状況がある 社会的に複雑な場面である 本人にとって社会的な規模が大きすぎる 本人の社会性の段階※以上の設定である 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的な状況を視覚的に伝える 自立した活動で社会的な活動を伝える 本人にあった社会的な規模と段階※の設定 など
全体よりも細部に注目する特性	転導性・衝動性 注意・注目の特性 軽率的・衝動的な行動、切り替えの困難さ注目のことへの困難さなど	<ul style="list-style-type: none"> 注目を引っ張っている物や活動がある 様々な刺激・情報がある 本人の注目を助ける刺激の統制が無い 注目すべき活動が明確に提示されていない 本人の切り替え、見通しのための手だてがない 	<ul style="list-style-type: none"> 影響を受けている刺激・情報の統制する 終わりど次の活動を提示する 活動を明確に指示する 活動の指示や材料を明瞭化する など
	時間整理統合の特性 日程の計画や調整、活動や手順の調整、実行機能の困難さなど	<ul style="list-style-type: none"> 本人に活動の終わりが提示されていない 本人に見通しが提示されていない(日課、活動、手順の提示がない) 変更が提示されていない 今の活動に関係のない物が見える 	<ul style="list-style-type: none"> 終わりど次の活動を提示する 日課やいくつかの活動、手順などを視覚的に提示する 変更を視覚的に提示する など
	空間整理統合の特性 自分の位置や材料や道具の位置の調整、1つ場所の多目的利用の困難さなど	<ul style="list-style-type: none"> 本人がどこで活動すればいいか提示されていない 材料や道具の位置が整理されていない 活動には関係のない刺激や情報がある 	<ul style="list-style-type: none"> エリアを設定する 境界を明確にする 刺激・情報を統制する 材料や道具の置き場所を指示する など
	変化の対応の特性 場所、物、人、予定、習慣の変化の不安・抵抗、強迫的な行動、ルーティンの必要性など	<ul style="list-style-type: none"> 日課の変更がある いつものとは違った流れがある 物の位置や状況の変化がある 変化、変更を伝える手だてがない 	<ul style="list-style-type: none"> 日課や活動の変更を視覚的に伝える 物や位置や状況の位置の変更を伝える、又はすぐ元に戻せるように工夫する など
	関係理解の困難さ 関連づけしすぎ、関連づけが難しい、自己流の解釈、字義どおりの解釈、絵などを具体的にとりすぎる	<ul style="list-style-type: none"> 曖昧な言語などの指示がある 比喩や慣用語などの指示がある 経験、機会が少ない 本人にあわせて整理して伝えられていない 	<ul style="list-style-type: none"> 本人にあわせて具体的に理解できる内容の指示で伝える 意味を理解するためのステップが必要である 本人にあわせて表や図で整理して伝える など
	一般化の特性 習得したスキルや人や物への対応を他の場面、違う文脈で状態が変わる。材料・場面・指導者が変わったときに課題を遂行できないなど	<ul style="list-style-type: none"> 1つの活動を様々な場面で実施している いつものと違った状況である 一般化に対応できない教え方である 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的に一般化の機会をつくる 1対1→自立→一般化のステップですすめる 活動を視覚的に伝える など
記憶の特性	記憶の維持の特性 短期記憶・作業記憶※などの維持の困難さなど	<ul style="list-style-type: none"> 距離が離れている 動線が複雑である 様々な刺激・情報がある 記憶を補う手だてがない 	<ul style="list-style-type: none"> 本人にあわせて活動(動作)の距離(長さ)、動線(位置)を工夫する 刺激・情報を統制する 記憶を補う視覚的な指示を準備する など
	長期記憶の特性 長期に脳に維持される記憶、経験した記憶が消えない特性など	<ul style="list-style-type: none"> 過去の記憶を思い出す切っ掛けの刺激・情報・状況がある 曖昧な時間が多い 生活全般が充実していない 過去の記憶を本人にあわせて整理されていない 	<ul style="list-style-type: none"> 記憶の記憶の切っ掛けになっている刺激・情報・状況を無くす 具体的な活動を生活全般で提示する 過去の記憶を本人にあわせて整理する など
感覚の特異性 視覚刺激、聴覚刺激、味覚刺激、嗅覚刺激、触覚刺激などによる反応、または鋭敏さ、鈍感さ	<ul style="list-style-type: none"> 様々な刺激がある 刺激を統制する支援がない 自己調整できる手だてがない 感覚刺激がある 	<ul style="list-style-type: none"> 刺激の統制をする 自己調整できるような工夫をする 感覚的な活動を具体化する など	
微細運動・粗大運動 手と目の対応の困難さ、手先の不器用さ、緊張のある動き、柔軟さのない体全体の動きなど	<ul style="list-style-type: none"> 本人が経験していない道具や材料がある 道具が本人にあっていない 本人にあわせて補助具・手だてがない 明確な指示、フィードバック※がない スモールステップでのトレーニングがない 	<ul style="list-style-type: none"> 本人にあわせて道具を活用する 本人にあわせて補助具、手だてを活用する 明確な指示、フィードバックをする スモールステップで教える など	
感情のコントロール	<ul style="list-style-type: none"> 感情を高める要因がある 感情をコントロールする方法がない 	<ul style="list-style-type: none"> 感情を高める要因を除去したり軽減する 感情を高ぶった状態を周囲や本人が確認できるようにする 感情をコントロールする方法を活用する など	

※エコラリア:繰り返しの言葉、コマーシャルなどを繰り返す遅延反響言語、その場で言われたことを繰り返す即時反響言語

※リマインダー:思い出すための視覚的な情報

※セオリー・オフ・マインド:心の理論、相手の気持ちを想像するスキル

※社会性の段階:接近・並行・共有・協力・交代・ルールを守る、社会的相互交渉

※フィードバック:できたことに対して褒めたり、「いいよ」と伝えたり、できていないことを修正したりする介入

※書籍『フレームワークを活用した自閉症支援』又は『生活デザインとしての個別支援計画ガイドブック』の特性解説の手引きとあわせて活用ください。 ※検索“自閉症 フレームワーク”